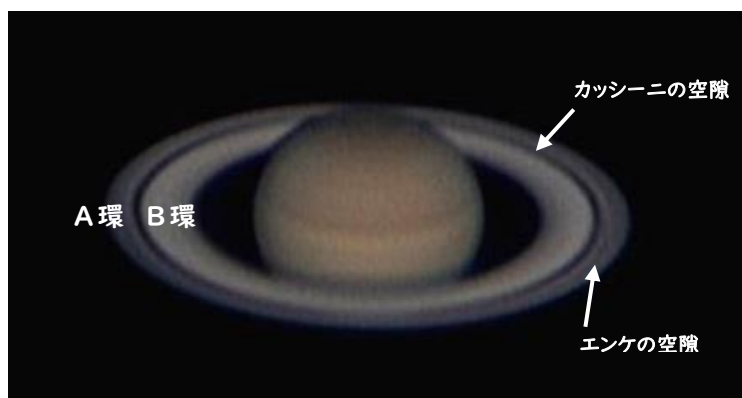




土星の環の怪 (その2)

土星の環の発見(1656年)から16年後の1672年、フランスのカッシーニは、土星の環に黒い隙間があることを発見します。発見者にちなんで、「カッシーニの空隙」と呼んでいます。そして、空隙より外側がA環、内側がB環と呼ばれるようになりました。



2003年12月14日の土星 21cm反射望遠鏡で筆者撮影。

A環の中央に見える微妙な暗い筋がエンケの空隙と呼ばれています。

それから150年以上経過した1837年、ドイツの有名な彗星観測者であるエンケによって、A環のほぼ真ん中に、新たな空隙が発見され、「エンケの空隙」と呼ばれるようになりました。ふだんは写真のように、微妙ながら見えることが多いので、多くの観測者は実在の空隙と思っていました。ところが、年に数回しかない気流の条件の良いときには見えないのです。実在が危ぶまれていたことも事実です。1888年になるとアメリカのキーラーがA環の外側1/5のところに極めて細い空隙を発見します。これは「キーラーの空隙」と呼ぶべきでした。

1980年にボイジャー2号が土星を探査すると、知られていない多くの空隙が発見されましたが、エンケの空隙のところには、地上から観測されてきたような空隙は見当たりません。キーラーの見つけた空隙はちゃんと実在していました。空隙に正式な名前を付けることになった時、カッシーニの空隙は問題ありませんでしたが、キーラーが発見した空隙に「エンケの空隙」、地上からは絶対見えないキーラーが発見した空隙のさらに外側にある細い空隙に「キーラーの空隙」と名付けられました。発見者と呼称が1つずつズレてしまったわけです。多くの天文学者が抗議しましたが、決定は覆らないまま現在にいたっています。

2021年9月20日記 (解説員: 田部 一志)